

山首上人さまご講演

信仰の本領

堪^{かん}

忍^{にん}



「ネムの木」

らく
楽をするために生きていけるのではありません

「堪忍かんにんがなければ、人ひとと人ひととは衝突しょうとつばかりするでしょうし、また自然界しぜんかいのいろいろな現象げんじょうについても、気きに入いらぬことばかり目につくようになるでしょう。自分じぶんの思うようにはならず、周囲しゅういの者ものはみんな妨さまたげをする者もののように思おもえてきます。自分中心じぶんちゅうしんのせまい考かんえで、堪忍かんにんすることができないのであります。

しかし、仏さまの教おしえを聞きいて何事なにことも修しゆ行ぎやうと思おもい、広ひろい心持しんぢちでこれを受け止とめ、

喜びよろこに代かえるようにするならば、りっぱに堪忍かんにんはできるのであります」

|| 御開山上人御遺稿・仏性のありか ||

御前様ごぜんさまはいろいろなことを書かれましたが、その特徴とくちょうは、〴〵わかりやすい〴〵ということです。以前いぜん、浅井円道先生あさいえんどうせんせいに『鈴木修学すずきしゅうがく先生の南無妙法蓮華經なむみょうほうれんげきやう』を写かいて頂いたきました。その書評しよひやうで中外日報ちゅうがいにっぽうが、〴〵わかりやすい文章ぶんしやうをむつかしく解説かいせつしている〴〵と書かいて

いました。そこが御前様と学者さんたちとの違いのように思っています。

一口に堪忍と言いますが、いろいろな堪忍があります。

「堪忍がなければ、人と人とは衝突する」

人は誰もが、程度の違いこそあれ自分と

いう「我」を持っております。〃オレガ〃

という心です。その我をむき出しにしてい

たら、ぶつかってばかりです。そこで〃思

うようにならない〃となつて、さらに堪忍

ができにくくなるのです。

「我」について唯識論は「末那識」と言い、

〃人はみな、生まれながらに病氣を持つて
いる〃と言っています。その病氣は、胃が
悪いとか心臓が弱いというのではありませ
ん。心の病氣です。オレガという我に貪・
瞋・痴の三毒が誘い出され、さらに困つた
出来事を招くのです。

では、どうしたらその病氣を治すことが
できるのでしょうか。それについては〃菩薩
行・六波羅蜜を実行するしかない〃と言っ
ています。この基本に立ち返らないと、衝
突は避けられないかも知れません。

人はいろいろで、我の強い人もいれば割
にあつさりした人もいます。堪忍の破り方

にも違ちがいがあつて、怒おこつてなぐりかかる人ひともいれば、ぶつぶつと愚痴ぐちばかり言いつてい人ひともいます。人ひとそれぞれですが、それもこれも本もとの原因げんいんは、思おもうようにならないことばかり起おきてくるからです。

この世界せかいをシャバ世界せかいと言いいます。刑務けいむ所しよにいる人ひとはシャバを恋こいしがるそうですが、そんないい世界せかいと思おもえません。

シャバとはインド語ごでサハーと言いつて、本もとの意味いみは「忍にん土ど」つまり、堪忍かんにんしなければ生いきられない世界せかい、ということですから、思おもういう世界せかいに生いきているのですから、思おもうようにならなくてあたりまえです。そのこ

とをまず知しつておく必要ひつようがあります。

人ひとに何なにか言いわれたり、邪険じゃけんにされて腹はらを立てるといふ、人間関係にんげんかんけいの堪忍かんにんだけでなく、自然界しぜんかいの現象げんしょうについても大事だいじな堪忍かんにんがあります。

日本にほんはありがたいことに四季しきがあります。今は暑あつい夏なつですが、やがて涼すずしい秋あきになり、寒さむい冬ふゆがやってきます。この暑あつさ・寒さむさをガマンすることも大切たいせつです。

今年ことしは早はやくから猛暑もうしょ日びが続つづき、熱中症ねつちゅうしやうで多くおほの人ひとが苦くるしんだと、報道ほうどうされています。た。大震災だいしんさい以降いこう、電氣でんきの節約せつやくが叫さけばれてい

たことも原因の一つかも知れません。

それにしても思うのは、昔の人のガマン強さです。昔と言ってもほんの数十年前まで、夏は暖房、冬は冷房があたりまえでした。学校からの帰り道、暑い、暑いと言いながら帰りましたが、家に帰ってもその暑さは変わりませんでした。今なら冷房の効いた部屋に入って、イヤレヤレとひと息つくことができますが、そんないい物はありませんでした。寒い冬も同じで、震えながら帰っても部屋にあるのは小さな火鉢だけでした。しかしその火鉢も、手の先が少しあたたまる程度です。夏も冬もよくガマ

ンできたものだと思います。

前にもお話しましたが、昔の本堂は昭和十二年に建てられた物で、会館風の天井の高い建物でした。堂々として見栄えは良かったけれど、冷・暖房などはありませんでした。

暖房の手段はやはり火鉢です。大きな火鉢が一つ置いてありましたが、そばに行けばいいけれど、少し離れたら全く効果はありません。隙間風は容赦なく入って来ましたから、お話をする方も、聞かれる方も大変でした。

暑い夏には周囲の戸や窓をすべて開け放

していましたが、冬のように風は入って来ません。外陣を囲む廊下に扇風機が何台かあったものの、生ぬるい風を送ってくるだけでした。時には、氷を買って氷柱を立てることもありましたが、氷にさわれば冷たいけれど、少し離れたら何の意味もありません。そんな中で「ほうろく加持」をした時は、まさに「地獄」のような暑さでした。一年中そういう中で生活していたのです。周囲もすべてそうでしたからガマンとも思わず生きて来ましたが、今思うと表彰ものです。

この世界は本当に思うようになりません。しかし、何でも思うようになったらいいかと言うと、一概にいいとは言えません。

たとえば入学試験です。最近は少子化の影響で、学校によつては試験のない所もあるようですが、やはり入学試験はあった方がいいと思います。一度は落ちて、また別の所に挑戦し、今度こそ入れるように頑張ろうと努力することがいいのです。

最初から何事も思うようになったら努力しようという気も起らないでしょう。それでは人間も社会も、いいことにはならないと思います。

普通に生活をしてゆく中で「周囲の人が
妨げをする」ようなことはそんなにないと
思いますが、自分中心の狭い考えで自分さ
えよければいいという生き方をしていたら、
まわりの人（ひと）にいい感情（かんじょう）を持（も）ってもらえませ
ん。それでは何事（なにこと）もうまくゆかないと思（おも）い
ます。そこで大切（たいせつ）になるのが「仏さまの教（おし）
えを聞いて何事（なにこと）も修行（しゅぎょう）と思（おも）い、広い心（ひろいこころ）で受（う）
け止め、喜び（よろこ）に代（か）えてゆく」ことです。
この世界（せかい）は堪忍（かんにん）をしなければ生きてゆけ
ないシャバ世界（せかい）です。一つ二つ思（おも）うように
ならないことがあつてあたりまえ、と思（おも）つ
ていれば、困（こま）ったことに出（で）くわしても、こ

んな程度（ていど）ですんでありがたい、と思（おも）うこと
ができると思（おも）います。そうなれば、堪忍（かんにん）を
する必要（ひつよう）もなくなります。
思（おも）うようにならないことのひとつに、年（とし）を
取（と）ることがあります。私も段々（だんだん）年（とし）を取り、
いろいろ不自由（ふじゆう）なことが起（お）きてきました。
その一つが、イスから立ち上（た）がることです。
以前（いぜん）は何（なん）の苦（く）もなくサツと立（た）てましたが、
最近（さいきん）は一苦労（ひとくろう）です。とにかく何（なん）かつままれ
る物（もの）を探（さが）して、それを頼（たよ）りに、ヨッコラシ
ヨッとしなければいけません。
物忘れ（ものわす）れにも困（こま）つております。実は最近（さいきん）、
余（あま）り考（かん）え事（こと）をしないように心（こころ）がけているこ

とがあります。殊に寝る前です。ふっと誰かのことを思い出して、あの人は……と考えているうちに、その人の名前が思い出せなくなる時があるのです。そうすると、その人のことが気になって頭から離れなくなり、眠れなくなってしまうす。

「ど忘れ」と言いますか、本当に忘れてしまったものではありません。あくる日になるとスツと思い出せるのです。それは、記憶の引出しの立て付けが悪くなって、開きにくくなっているところに原因があります。引出しの中にはちゃんとその人の名前を書いた札が入っているのですから、開けばす

ぐ出て来るのに、閉まったままですと出て来ません。そんなことで、夜寝る時にはややこしいことを思い出さないようにしてあります。

この世界はたしかに思うようにならない世界であります、大事なことは、この世界は自分の思うようにしようという世界ではない、ということです。杉山先生が百年前におっしゃったことは、私共は菩薩行をするために生きている、ということです。菩薩行とは、自分が幸せになりたいと願う前に、まずまわりの人を喜ばせよう、力づ

けてゆこうとすることです。そうであれば
何事も、そのための修行しゆぎやうということになり
ます。いろいろなことはあるけれど、それ
はみな修行しゆぎやうなのです。樂らくをするために生き
ていると思うと、おも思うようにならないゝと
なつて腹はらも立ちますが、修行しゆぎやうであれば、少
々苦しいことがあつてもあたりまえですか
ら、腹はらを立てるのはおかしいゝということ

になります。ゝこんな程度ていどで菩薩ぼさつの修行しゆぎやうが
できるとはありがたいゝと、広い心ひろこころで受け
止め、喜びよろこに代えてゆかれると、おもいます。
人間にんげんは、自分じぶんが幸しあせにしてみらうために
生きているのではありません。人ひとを喜よろこばせ、
力ちからづけるために生きています。それが、
杉山先生すぎやませんせい以来いらいの法音寺ほうおんじ信仰しんこうの本領ほんりやうでありま
す。